

専門家たちの声



御船町教育委員会
園村 辰実 文化財専門指導員

1月末に御船町の文化財保護指導員として着任し、小坂大塚古墳の発掘調査に関わることができました。その調査の成果を現地説明会で御船町民の皆様をはじめ多くの方々に、直に見てもらい、小坂大塚古墳の周溝の規模や歴史的価値を知っていただくなど、貴重な体験を提供することができたことは本当に良かったと思います。

発掘調査の支援をいただいた県教育庁文化課の皆様、杉井先生をはじめ専門調査員の方々に助言をいただき、今後この御船町の貴重な史跡を「どういう方法で保存し、どういうふうに活用し、どう後世に伝えていくか」を検討していかなければと思います。



熊本大学文学部
杉井 健 准教授

陸橋を検出した点は重要な成果。調査できちんと検出された古墳時代中期の事例はきわめて珍しい。古墳時代前期では、全国でも事例を確認することはできたが、中期となると難しい。そのくらい珍しい発見である。

小坂大塚古墳の被葬者は、肥後型横穴式石室という熊本独特の埋葬施設で、直径50mを超える規模の円墳を築き、近畿中央政権との密接な関係を示すものが発見されたことで、熊本県地域南半部における最大の権力者であったことは確実だと思われる。

小坂大塚古墳は、大円墳、陸橋、壺形埴輪、肥後型横穴式石室、甲冑がそろった古墳として、全国的にもきわめて注目されるでしょう。



小坂大塚古墳— Ozaka Ootsuka Kofun

高さ 12.5m
直径 54m
墳丘形式 円墳
場所 御船町小坂
(第二明星学園敷地内)
築造 5世紀初頭
埋葬方法 横穴式石室
出土品 鏡(倭製獣首鏡)、勾玉、
剣、甲冑、農具など

小坂大塚古墳 県南最大級の円墳に



▲3月4日、小坂大塚古墳で地元住民を対象とした現地説明会を行いました。説明会は、午前と午後の部に分かれ、約250人が参加。現地では、出土品などの展示コーナーも開かれ、さまざまな質問が飛び交いました。参加者たちは、周溝の広さに驚きの声を上げ、神秘的な古代の現場に足を踏み入れ、歴史的瞬間に立ち合いました。



△珍しい発見となった陸橋

りくきょう
陸橋— 墳丘への通り道。深い周溝を渡って行くための陸の橋。



つぼがた
壺形— 埴輪



古墳の土の色になるまで、手作業で掘り進めます

町指定史跡の小坂大塚古墳は、大正9年8月末に村民道修理のための大規模な土取りが行われたときに、石室が発見されました。
翌年には、県教育会史蹟調査部の調査のもと、京都帝国大学(現在・京都大学)が本格的な調査に入り、埋葬方法や出土品などさまざまな発見がありました。
一昨年の熊本地震で被災し、解体した第二明星学園跡の地下から、墳丘を囲んでいた周溝の一部が確認されたことから、発掘調査を行いました。墳丘は直径54m、溝は幅12mと推定され、県南最大級の円墳として姿を現しました。

姿を現した

小坂大塚古墳